

わたしの おぎくぼ

発行：荻窪地域区民センター協議会 〒167-0051 杉並区荻窪2-34-20 ☎3398-9127 FAX 3398-9128
ホームページ <http://ogikubokyougikai.sakura.ne.jp/>
荻窪地域区民センター 杉並区荻窪2-34-20 ☎3398-9125 【休館日】第2・4月曜日と20日・12/28～1/4
本天沼区民集会所 杉並区本天沼2-12-10 ☎5310-4633 【休館日】第1・3月曜日・12/28～1/4

講座紹介 「講談鑑賞会」 ～講談の魅力を目の前で楽しもう～

お盆休みのひととき、プロの講談師による怪談話をじっくりとお聞かせください。
今年も「講談出前授業」などで当協議会が大変お世話になっている神田山緑（かんだ・さんりょく）師匠に「講談鑑賞会」での公演をお願いしました。
山緑師匠は、2018年に真打に昇進、テレビ、ラジオへの出演のほか、自ら講談教室を主宰するなど幅広く活動されています。
もうお一人の田辺凌天（たなべ・りょうてん）さんは今年二つ目に昇進した新進気鋭の女流講談師です。



神田山緑



田辺凌天

- 日 時：8月14日（土）午後2時～4時
- 場 所：荻窪地域区民センター 第1・2集会室 定員30名
- 演 目：「姫妃（だっき）のお百」田辺凌天、「四谷怪談」神田山緑（出演順）

※参加を希望される方はP4の講座などのご案内をご覧ください。

第43回 子どもも大人もみんなおいで！

おぎくぼセンター祭

「おぎくぼセンター祭」で
楽しい一日を
過ごしましょう！



- ★期 日：10月31日（日）
- ★時 間：午前10時～午後4時
- ★会 場：荻窪地域区民センター

舞 台

体験・展示

模擬店・物販



新型コロナウイルス感染症の影響、ワクチンの接種進捗状況等により感染対策が必要です。イベント実施規模も変更する場合があります。

※新型コロナウイルス感染症対策に伴い、スケジュールが流動的です。変更する場合はホームページなどでお知らせします。

これからのスケジュール

8月

●4日・11日・18日・25日※

「ハーモニ」を楽しむヴォイストレーニング
講師：安藤操（ヴォイストレーナー）

●5日・12日・19日・26日※

「現代の短編を読む」
講師：生田美秋（高志の国文学館事業部長）

●14日※

「講談鑑賞会」
「四谷怪談」神田山緑「姫妃のお百」田辺凌天

9月

●11日・18日・25日・10月2日※

「じっくり読む」おくのほそ道」
講師：林誠司（俳句誌「海光」代表）

●26日※

「コロナ禍における発展途上国の現状」
講師：林薫（文教大学国際学部教授）

●28日※

「おぎくぼ」わたしの「おぎくぼ」
No.353 10月・11月号発行

10月

●7日・14日・21日・28日※

「いきいき朗読教室」
講師：岡野マコト（ドラマティック・リーディング講師）

●16日※

「トルストイの民話」
「人はなんでも生きるか」を読んでみませんか」
講師：杉山春子（明治大学講師）

●23日※

「多肉植物でつくるミニテラリウム」
講師：吉野華恵（グリーンアドバイザー）

●31日※

「おぎくぼセンター祭」
No.354 12月・1月号発行

11月

●6日※

「荻窪音楽祭」地域ふれあいコンサート」
30日※

「おぎくぼ」わたしの「おぎくぼ」
No.354 12月・1月号発行

12月

●5日※

「防災フォーラム」
●11日※

「11月月末郷土博物館分館にて展示」
「荻窪の記憶Ⅳ 清水・今川・桃井の歴史」
●12日※

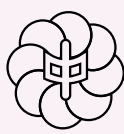
「荻窪寄席」

※イベント・講座等は変更になることもあります。

※会場が明記されていないものは全て、会場は荻窪地域区民センターです。

※問い合わせ先：事業企画部 ●地域交流部

●広報部 ●総務部



「自治の精神」を大きく掲げ、知・徳・体のバランスを重視する 杉並区立宮前中学校



このシリーズの第8回は、宮前中学校の鳥居利至校長先生からお話を伺いました。

★概要

宮前中学校は、1947年に開校、4年前の2017年に70周年を迎えました。学校での記念式典は行いましたが、同窓会主催の式典はコロナ禍の影響で残念ながら開催できていません。学級数は通常学級9、特別支援学級2で合計11学級、生徒数345名（2021年5月現在）です。隣接する荻窪小学校や久我山小学校卒業の生徒を中心に構成され、それに高井戸小学校、高井戸第四小学校などを卒業した生徒も何人か含まれます。

★宮前中の特色

宮前中の学校教育目標は「人権尊重の精神を踏まえ『自治の精神』を貫き、知・徳・体をバランスよく育む」です。この「自治の精神」は何事も生徒が主体的に行事に携わるというもので、学校生活の活気に繋がっているそうです。

もう一つの特長は制服がないことです。制服がないことで校内に「校則」の概念はほとんどありませんが、生徒会や自治委員が中心となり風紀を維持しています。校則がなくても集会などでだらしないことはなく、しっかり節度が保たれているのが優れた特色です。最近、荻窪地域区民センター協議会主催の「講談鑑賞会」を宮前中で開いた際も、生徒たちの規律の良さに驚かされました。これも「自治の精神」の効果なのでしょう。

宮前中は、学校経営の基本的方針の中で、「豊かな心の育成」を掲げていますが、背景には不登校の生徒が少なからずいることがあります。対策としては「居場所作り」の取り組みを重視しているそうです。地域の人たちの協力も得て、校内に不登校の生徒の「居場所」をつくり、必ず誰かが付き添って勉強や相談に乗ることで、徐々に教室への復帰を実現しようとしています。

また、杉並区内の区立中学23校のうち6校に「特別支援学級」がありますが、宮前中もその一つです。令和3年度の特別支援学級のE組生徒は14名で、朝礼やクラブ活動などの行事はすべて通常学級の生徒と一緒に分け隔てなく活動しています。

体育祭の全員リレーでは、1学年のリレーにE組が通常学級の2・3年と連合チームで参加し、合唱祭でも通常学級の生徒が加わって参加しているそうです。



「夢未来プロジェクト」で話すバスケットボール選手・小磯典子さん(2020年11月)

★頑張りすぎずに文武両道

宮前中の校長室そばの廊下には、受賞したトロフィーがズラリと

並んでいます。学校創立初期にはハンドボールが強く、当時の卒業生たちは「全国レベルだった」と豪語しています。合唱部もかつて全国レベルで、関東レベルではソフトテニスとか卓球がありました。現在は、全国・関東レベルの部活動はありません。

学力は「区内で真ん中より少し上」と高めを維持しています。保護者も子供たちの進路や学習面に対する思いが強く、学校への期待も大きいそうです。

宮前地区の地域活動については、地域行事そのものが少ないですが、神社の祭りで吹奏楽部が舞台発表したり、ボランティアで地域清掃や境内の清掃活動に参加したりしています。PTA活動については、学校行事や学校生活のサポートを柱に制服リサイクル、PTAだより、PTA広報誌、ブログの作成など学校の縁の下での力持ちとして幅広く活躍しています。



合唱祭(2020年10月)



体育祭の予行演習(2021年6月)

★鳥居校長の思い

鳥居校長の教育歴は、日野市の三沢中学校に始まり、オーストラリアのシドニー日本人学校で3年間の勤務を含め、高井戸中に13年、泉南中に11年と長く、この間、3.11の東北大地震の際には杉並区から派遣された3人の教員の一人として宮城県亘理郡山元町で半年間教員として勤務しました。宮前中の校長には2019年4月に着任、その前は西多摩の瑞穂中で副校長として6年間過ごされ、やんちゃな生徒の生活指導に追われたそうです。宮前中は明るく礼儀正しい生徒が多く、活気のある学校です。宮前中の生徒が満足感、達成感をもって笑顔で卒業式を迎えることができることを願いながら、すべての生徒が尊重され、安心して学びあえる居心地のよい学校を目指す—これが鳥居校長の思いです。

杉並区立宮前中学校

住所:168-0081 東京都杉並区宮前2-12-1 電話:03-3333-8728
ホームページ:www.suginami-school.ed.jp/miyamaechu/

開催報告 リズム&ストレッチ教室

今年度「リズム&ストレッチ教室」が6月9日(水)午後1時30分～3時30分に荻窪地域区民センター体育室にて第1回が開催されました(4回教室)。講師はおなじみの後藤鈴香講師。田中補助講師との息もピッタリ!体育室の窓も開け換気と受講生間の距離を取りながら20名余りの受講生が参加(男性は4名)。人気講座で抽選での当選した幸運な方々は、初めての方からご常連迄。

平均年齢は60代前半くらいで、最高齢は80代でした。後藤講師の明るいムードに乗せられて、ストレッチや脳トレ、ウォーキングをたっぷり2時間弱。姿勢を良くして呼吸の仕方を笑いながら体得されていました。背伸びをして大股で歩くと確かに綺麗に見えます。可動域を広げて、できない事に挑戦する事が若さを保つ秘訣だと再認識した楽しい講座でした。



「荻窪の記憶」 こぼればなし

ベレー帽

西荻窪の駅前広場は、ベレー帽姿の画家たちの姿が目立ったので、戦後の一時期「ベレー帽広場」と呼ばれていたそうです。なぜ、当時の画家や文化人たちは、てっぺんにチョボのついた、どこかとぼけた感じもする帽子を好んで被ったのでしょうか。かねてから疑問に思っていたところ、知人が貸してくれた豆本のなかに『我がベレーの記』という格好の随筆を見つけました。著者は、柔道家で詩人だった竹下彦一、荻窪に住んでいた文化人の一人です。

ここで、おさらいをしておくと、ベレー帽が生れたのはスペインとフランスの国境地帯に広がるバスク地方といわれ、画家とベレー帽の関係は、19世紀に入って、野外で絵を描くようになった画家たちが、日除け、風除けのために被ったことにはじまるようです。日本に伝えたのは、フランスに留学し、日本の洋画の父といわれる黒田清輝だといえますから年季が入っています。また、戦前は横山隆一、戦後は手塚治虫などが愛用したことから、ベレー帽は漫画家の象徴にもなりました。

『我がベレーの記』にもどると、竹下彦一がベレー帽を被りはじめたのは、終戦後、柔道を教えていた学校を辞めてからで、「学校の教師をしている内は、好きでもベレー帽は被って歩かれなかった」と書いていますから、自ずと世間からベレー帽がどう見られていたかがうかがわれます。

肝腎な「なぜ、ベレー帽を被るのか」への答えですが、「ベレー帽を被ると温かいし、ポケットの中にも丸めて入れられるし、嵩張らないし風などにも飛ばされないし、こんな便利な帽子はない」というもので、もっぱら実用性にしか触れられていないのは残念です。

ベレー帽の入手についても詳しく書かれ、それによると、初めはフランス製にこだわったらしく、「フランス文学の小松清さん」「作家の田村泰次郎さん」「那須仁九郎（陶芸家）さん」などの友人が渡仏するたびに頼んで、買ってきてもらっています。また、同じ柔道家の「石黒敬七旦那」からは「楽に被れるように、裏をちぎってくれたの」をもらうなど、日ごろから中央線沿線の文化人たちの間に親しいつき合いのあったことが、帽子を通して伝わってきます。



写真提供：石黒敬章

上の写真は、NHKラジオのクイズ番組「とんち教室」の出演者たちがバス旅行に出かけたときに撮られたものです。手前左の石黒敬七と三列目中央の漫画家・小川哲夫がベレー帽を被っています。同番組は、昭和24年から44年までつづいた人気番組でした。写真に写る出演者を紹介すると、石黒の隣に、桂三木助と清川虹子、二列目左から、長崎抜天（漫画家）、青木一雄（司会）、春風亭柳橋など。

「荻窪の記憶」プロジェクト 松井和男

講座案内

現代の短編を読む

新潮クレストブックの短編アンソロジーから毎回2編ずつ読み意見交換し、必読の話題作を1編紹介します。

- ★開催日：8月5日・12日・19日・26日（木） 4回
- ★時 間：午後1時30分～3時30分
- ★講 師：生田美秋（富山県立高志の国文学館事業部長）
- ★定 員：20名
- ★参加費：300円

※参加を希望される方はP4の講座などのご案内をご覧ください。



写真は前回の講座風景

じっくりと読む「おくのほそ道」

千住から大垣までの全行程の中から特に味わい深い箇所を抽出してじっくりと鑑賞します。

- ★開催日：9月11日・18日・25日・10月2日（土） 4回
- ★時 間：午後1時30分～3時30分
- ★講 師：林 誠司（俳句誌「海光」代表）
- ★定 員：20名（初回申し込み者を優先します）
- ★参加費：200円

※参加を希望される方はP4の講座などのご案内をご覧ください。



写真は前回の講座風景

講座などのご案内

※スケジュールが変更になった場合はホームページなどでお知らせします。

講座名	内容・講師	開催日・時間	定員	参加費	申込締切
現代の短編を読む	新潮クレストブックの短編アンソロジーから毎回2編ずつ読み意見交換し、必読の話題作を1編紹介します。 講師:生田美秋(富山県立高志の国文学館事業部長)	8月5日・12日・19日・26日 各木曜日(4回) 午後1時30分～3時30分	20名	300円	7月25日(日)
講談鑑賞会	夏のひと時、プロの講師による怪談の迫力を楽しみましょう。 [四谷怪談]／神田山緑(かんだ・さんりょく) [姫妃のおお]／田辺凌天(たなべりょうてん)	8月14日(土) 午後2時～4時	30名	200円	8月1日(日)
じっくりと読む 「おくのほそ道」	松尾芭蕉の「おくのほそ道」で、深川から大垣までの全行程の中から、特に味わいの深い箇所を鑑賞し、俳句の楽しさ、旅の楽しさを紹介します。 講師:林 誠司(俳句誌「海光」代表) ※初回申し込み者を優先します。	9月11日・18日・25日・10月2日 各土曜日(4回) 午後1時30分～3時30分	20名	200円	8月22日(日)
コロナ禍における 発展途上国の現状	発展途上国に焦点を当て、コロナ禍の世界を展望します。 講師:林 薫(文教大学国際学部教授)	9月26日(日) 午後1時30分～3時30分	20名	200円	9月12日(日)
いきいき朗読教室	演劇のように登場人物の台詞を演じ分けるなど、ドラマチックな朗読を初歩から楽しく学びます。 岡 摂子(ドラマティック・リーディング講師)	10月7日・14日・21日・28日 各木曜日(4回) 午後1時30分～3時30分	20名	300円	9月26日(日)

【講座の申込方法】 ◆往復はがきに〈一人一枚〉 ①希望講座名 ②住所 ③氏名(フリガナ) ④年齢 ⑤電話番号を明記のうえ
〒167-0051 荻窪2-34-20 荻窪地域区民センター協議会宛 (申し込み多数の場合は抽選です。)

「荻外荘通り」にプレート設置 計6カ所、今後さらに増設を

6月はじめ、与謝野公園近くの「アコースフィアカフェ」に案内プレート(下の写真)を設置しました。西郊ロッキングから始まったプレート設置はこれで「緑化園」、「PukuPuku」など計6カ所となりました。協力いただいた方々に感謝申し上げますとともに、今後さらに設置箇所を増やし道の愛称「荻外荘通り」が荻窪や南荻窪の住民の皆さまに定着していくことを期待しています。



野外講座「荻外荘通りを歩こう」

- 実施日時:6月19日(土)午前10時～12時
- 参加者:17名

「荻窪の記憶」プロジェクトの松井和男講師の案内で、西郊ロッキングや、渡辺邸などの文化財を巡り、関係者から建物の歴史や現状をお伺いしました。

小雨模様だったため、散策を途中で切り上げ、荻窪地域区民センターに移動、松井講師から明治から昭和にかけての荻外荘通り周辺の歴史を解説していただきました。

郷土博物館分館 区民参加型展示

問い合わせ: ☎5347-9801

西棟1階展示室

「花いそさんの記憶画」 昭和20～30年代の下高井戸の生活風景

戦前より親しまれてきた生花店「花いそ」の三代目店主・芹沢政一さんが描いた、昭和20、30年代の下高井戸周辺を中心とした記憶画を展示します。当時の人々の生活の風景のほか、終戦、復興、オリンピック東京大会、高度経済成長を経て発展していった街並みの移り変わりを芹沢さんの作品から辿ります。

【開催期間】令和3年5月22日(土)～8月1日(日)

西棟1・2階展示室

「IOGI(井荻)」 ～チェコ若手アーティストが描く杉並～

チェコでは、コミックは日本のようにサブカルチャーとしてではなく、芸術の一分野として発展しました。本展では、チェコの若手アーティストが描いた、杉並の街並みを中心としたコミック作品を展示します。

【開催期間】令和3年8月28日(土)～9月26日(日)

- 場 所:杉並区立郷土博物館分館(杉並区天沼3-23-1天沼弁天池公園内)
- 開館時間:午前9時～午後5時
- 休 館 日:毎週月曜日と第3木曜日(祝日の場合は開館し翌日休館)
- 観 覧 料:無料

*「地域からのお知らせ」のコーナーに掲載したい地域情報がありましたら、センター協議会へFAXでご連絡ください。 FAX番号:3398-9128

第43回アート展は、令和4年1月29日(土)・30日(日)に延期します。



荻窪地域区民センター協議会からのお知らせ

委員会の 日程

8月31日(火) 午後1時～ 会場:第1・2集会室
9月28日(火) 午後1時～ 会場:第1・2集会室
※委員会は一般公開です。傍聴を希望される方は事務局までお申し込みください。